



北東北の自然は、わたしたちに豊かな自然のめぐみをもたらし、たくさんの生き物を育てています。



希少種を守る

地球上の生物は、確認されている生物だけでも約175万種、未知の種も含めると500~3,000万種がいるといわれています。

野生生物のくらす環境は、水質汚染、地球温暖化、外来種の持ち込みといった人間の活動によって急速に悪化していることから、法律を定めて世界が協力し、絶滅のおそれのある野生動植物(希少野生動植物)を守る活動が進められています。



ハヤチネウスユキソウ



トノサマガエル



イヌワシ



ニホンカモシカ

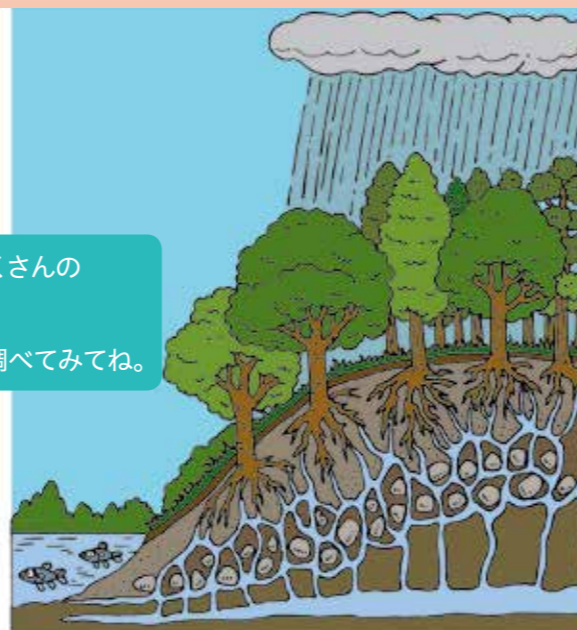
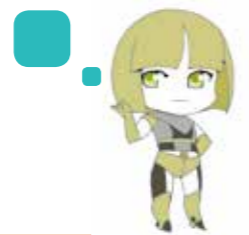
森林のはたらき

森の木や土は、降った雨をたくわえて、ゆっくりと時間をかけて川や湖に流しています。森林は緑のダムともよばれます。雨水をきれいにすることはたらしきもあります。

森林の役わり

森林は、二酸化炭素の吸収、地下水を豊富にたくわえる、土砂災害を防ぐ、木材やキノコや山菜などを育むなど、わたしたちのくらしに欠かせない役わりを果たしています。森林にいただけで安らぎを感じさせる効果もあるといわれています。

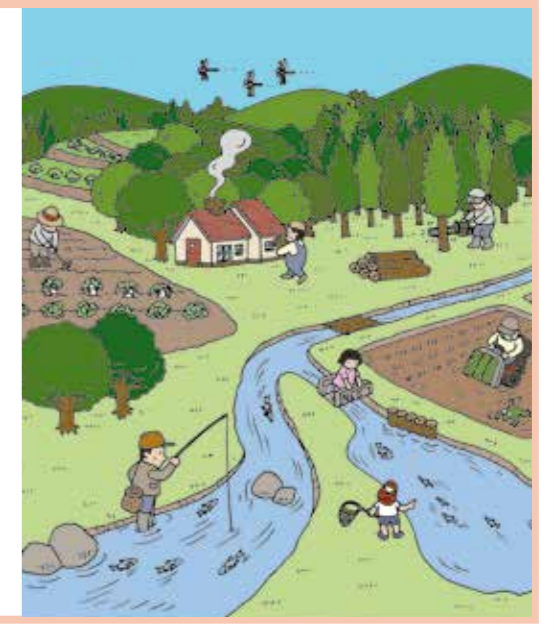
森林にはほかにもたくさんのはたらきがあります。どんな働きがあるか調べてみてね。



豊かな自然が生活している里山

森林と都市との中間にあって、森林の近くにとりあってくらす集落や農地(田んぼや畑)、ため池、草原などのある地域を里山といいます。里山は、人が自然に働きかけて生まれた空間です。里山は、特有の生物の生息や成育の環境としてとても重要です。里山の環境を守ることが、多様な生物の生息する環境を守ることにつながっています。

人間は、里山から薪などのエネルギーや建材などの素材、食料などを手に入れ、同時にメダカやカエルなどたくさんの生きものが生息できる、人間と生物の共生の場を守ってきたのです。そして共生の場を守ることは、いろいろな生きものの生命とともに、人間の生命を守ることにもつながります。



人工林の間伐

森林では、植えた木の間引きして木と木の間に空間をつくる「間伐」という手入れを行います。間伐をしないと日光が林に差しこまず、木が健康に育ち

ません。森林の手入れをしないと、新しい木が植えられず、高齢の木々ばかりとなり、二酸化炭素の吸収量が少なくなるなど、森林のはたらきが失われてしまいます。



身近な自然のようすや生き物、そこで働く人たちがどのように自然を守っているか調べてみましょう。



■むつ市海と森のふれあい体験館 <http://www.mutsu-taikankan.jp/>
■環境省・里地里山の保全・活用 <http://www.env.go.jp/nature/satoyama/tebiki.html>